

令和2年度 学 校 評 価

多可町立杉原谷小学校

1 学校教育目標

いのちと人権を大切にし こころ豊かに たくましくのびる ふるさと大好き 杉っ子の育成
～自分・友だち・学校・ふるさとみんな大好き楽しい杉原谷小学校～

2 努力目標

- | | |
|--|---|
| <p>(1) 確かな学力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎基本の定着 ○「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業の創造と教職員の資質向上 ○読書活動の充実 ○家庭学習の習慣化 <p>(2) 豊かな心の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○いのちの尊さや人権意識の向上 ○道徳教育の充実 ○いじめを許さない、一人ひとりを大切にする取組 ○一人一人のニーズに応じた特別支援教育の充実 ○キャリア教育の充実 ○温かい人間関係づくりの推進 ○体験活動の充実 <p>(3) 健やかな体の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活態度・生活習慣の確立 ○体力の向上 ○食育、健康教育の推進 | <p>(4) ふるさとを誇りに思う心の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ふるさと意識の醸成 <p>(5) 信頼される地域と共に歩む学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保護者・地域から信頼される教師集団の形成 ○地域と共に歩む学校づくり ○学校教育活動の積極的な公開、情報提供 ○学校評価を活用した学校運営の改善 ○幼小中連携の推進 <p>(6) 安全で安心な学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○安全安心の確保 <p>(7) 働きがいのある学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○勤務時間の適正化 ○明るく風通しのよい職場づくりの推進 ○ワーク・ライフ・バランスの推進 |
|--|---|

3 学校自己評価結果 (A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない)

4 学校関係者評価結果 (1:満足できる 2:概ね満足できる 3:更なる工夫改善を要す)

観点	評価項目	実践目標	取組の状況	自己	来年度の取組・改善策	学校関係者評価
学 習 指 導	・確かな学力の育成をめざして、環境整備や指導方法の工夫、改善を図ることができたか。	・授業研究や校内研修の内容を充実させ、平素の授業改善につなげていく。 ・エキスパートティーチャー等の講師招聘により授業力を高める。積極的な授業相互見学を進める。 ・朝の学習や少人数、通級、個別、課外指導など	・授業研究では教材研究から全員で行うことで、教材研究の視点や考え方を共有し個々の授業改善に生かされていると感じた。 ・本年度は授業お見合い期間を設け、学期に2回積極的な授業相互見学を行った。その中で、お互いに学びを交流し、自らの授業改	B	・今年度同様年間5回程度の授業研究会を行う。その中で、確かな学力の育成につながる授業づくりに継続して取り組んでいく。深い学びを意識し、対話的な学びの具体をより詳細に研究し、全職員で授業改善を進めていく。 ・授業相互見学をし、授業	1

教 育	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業の工夫と充実が図られているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳ノートや挿絵を活用し、「考え、議論する授業づくり」をめざす。 ・地域教材を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣校の研究授業に参加し、授業力の向上を図った。 ・各学年で兵庫ゆかりの人物・伝統文化・自然を取り上げた心シリーズを活用し、授業を進めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣校などの研究授業に参加し、授業力の向上を図る。 ・年一回、全学年の保護者への道徳授業公開を続ける。 	
人 権 教 育	<ul style="list-style-type: none"> ・ほほえみなどの資料を活用し、指導を進められたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多可町人権教育コア・カリキュラムに基づいた授業を実施し、人権課題について考えることを通し、道徳的心情・判断力・実践意欲と態度を育成する。 ・毎月の「いのちと人権週間」の取組や友だち集会を通して、学校全体の人権意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多可町人権教育コア・カリキュラムに基づいて学習を進められた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・多可町人権教育コア・カリキュラムに基づいて学習を進められたので、来年度も継続して取り組む。 	1
	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画をもとにし、それぞれの教科・領域で指導が進められたか。 ・いじめを許さない、一人一人を大切にしたい取組ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の学校生活相談シートの内容を各教員で確認し、その中でも気になる児童については生徒指導担当と連携し、早期に対応する姿勢を作る。また、職員会議で全教員に周知連絡し、学校全体で対応する姿勢を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月「ぽかぽか週間」を実施し、自分の生活をふり返ったり周りの人たちへの感謝の気持ちを表したりすることで、人権を身近なものとして考えられるようになってきている。 ・ぽかぽか集会で、人権作品の紹介や各クラスの取り組み発表を行い、人権意識を高められた。 ・学校生活相談シートで抽出された児童の情報を生活指導担当と連携し、早期対応に努められた。 	B B	<ul style="list-style-type: none"> ・「ぽかぽか週間」の取組が、自分のことをふり返ったり友だちのことを考えたりするよい機会となった。ぽかぽかカードの記入は定着しつつあるので、今後の展開について考えていく必要がある。また、全クラスが足並みをそろえて取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケート(児童用)で、困った時に相談できる人がいると答えた児童が、94%いることは良いことである。 ・ぽかぽかカードの記入に、保護者を巻き込んでどうか。親から子どもへぽかぽかカードを書いてもらうという取組。 ・人権について、当事者として捉えさせていくことが大切だと感じている。
特 別 支 援	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家との連携を密にし、より良い支援を目指せたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家や保護者との連携を密にし、児童理解に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・休校中、北はりま特別支援学校コーディネーターから支援学級の理解教育について進め方を学んだ。また、来年度に向け、入級が必要かどうか児童観察及び指導を受けた。 ・児童の実態や必要に応じてケース会議を開いた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な関係機関と連携を取り、可能な限り授業公開をしたり研修会をもったりして、合理的配慮の仕方について学ぶ機会をもつ。 	1
	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的なケース会議や臨時の会議を開催しながら、児童の課題に即座に対応することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の課題に即座に対応するため、定期的なケース会議や各担任からの発信で臨時の会議を開催する。 		A	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議での気になる児童についての情報共有を続け、スクールアシスタントや生活補助員等とも連携を密にし、学校全体で素早く 	

教 育	<ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ教育についての研修を進めることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修計画をもとに、特別支援教育・インクルーシブ教育について、職員間で情報を共有し、研修を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級担任が4, 5, 6年生に支援学級の理解に向けた授業を行った。2回の授業を通して、人には得意不得意があり、だからこそ助け合って生きていることを一緒に考えた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 課題に対応できるようにする。 ・支援学級への理解教育を含め、インクルーシブ教育について、さらに研修を深め、支援を要する児童をクラス全体で支える方法を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブはインクルージョンの対義語。つまり、「排除する」の反対である。だれもが、居場所とやりがいのある学級や社会を目指していくことが大切。
総 合 的 な 学 習	<ul style="list-style-type: none"> ・学年に対応した計画的、継続的な指導ができ、児童の主体的な活動が展開できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題意識を持って取り組めるよう、カリキュラムの設定や活動計画の立案等を行う。 ・年間計画を基に、児童が見通しもてる活動を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の総合的な学習におけるテーマに従って活動することが出来た。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域教材を生かした学習が多い。新しい発見があったり、探究心が駆り立てられたりする授業づくりを心がけるとともに、年間指導計画に基づいて見通しを持って指導にあたるようにする。 	1
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の教材を取り入れ、体験的な学習を通じて、地域に対する誇りを持つことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境体験、福祉体験、地域の特産物を知る学習、杉原紙に関する学習等を通じて地域の自然を感じたり、地域の伝統を知ったりするとともに、地域の人々との交流を深めて豊かな体験活動を展開し、地域の良さに気づいたり、将来に夢を持ったりする児童を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年とも、環境体験、福祉体験、地域の特産物を知る学習、英語活動等に加えて、杉原紙に関する活動を組み込んで、全学年で取り組むことが出来た。 ・活動の様子は写真や作文等によって、記録として残した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の成果が当該学年以外に伝わりにくい部分がある。そのため、写真や作文を記録として残し、今後に引き継いでいけるように工夫する。 	
特 別 活 動	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会活動や縦割り班活動が活性化し、自主的実践的な態度が育っているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝のあいさつ運動や集団下校時のあいさつ運動を通して、気持ちのよいあいさつができるように取組を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会役員と各学級の委員長、副委員長が中心になって、毎朝のあいさつ運動を行い、全校生のあいさつに対する意識を高めた。本校の伝統となっている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においても、児童会役員と各クラスの代表(3年生以上)がしっかりとあいさつ当番を務め、全校生のよい刺激となっていた。今後も、相手の目を見て、元氣よくあいさつの出来る杉小っ子の育成を目指し、あいさつ運動を進めていく。 ・学期末における、児童会を中心とした「よりよい生活について」の啓発運動は、6年生の自主性や責任感を育てる大変よい機会となっている。児童の思いを大切 	1
		<ul style="list-style-type: none"> ・児童会を中心に気持ちのよい生活を送るために大切なことを全校生に発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会を中心に、全校生に向けて生活のきまりについての劇を行ったり、いじめをなくすためにポスター等による啓発を行ったりすることで、児童の規範意識が高まり、お互いを大切にしよう 			

		<ul style="list-style-type: none"> ・縦割り班活動の中で、低学年は社会性を身につけ高学年は責任感や思いやりの心を育む。 ・各行事や委員会、クラブ活動の運営を通して、高学年が学校のリーダーとしての役割を果たせるようにする。 	<p>とする心情を育てることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縦割り班活動では、毎回事前に6年生が計画、打合せを行い、事後には振り返りを行った。その活動を通して、低学年は社会性、高学年は責任感や思いやりの心を育むことができた。 ・各行事や委員会、クラブ活動では、6年生がリーダーシップをとって運営できるよう、環境を整え指導を進めた。 		<p>にした取組を今後も継続していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会性や責任感、互いを思いやる心を育んでくれる縦割り班活動であるが、新型コロナウイルスの影響により、十分な時間の確保が難しい1年となった。状況を見ながら充実させていきたい。 	
外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師との協力体制のもと、外国語担当を中心とした計画的な指導ができ、児童の意欲的な活動が見られたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の中でつきたい力を見据え、外部講師と協力しながら、魅力ある授業づくりに取り組む。 ・専科・ALTと意見を交流しながら、外国語を学びやすい環境を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTと専科教員を中心に、充実した取組ができ、児童は意欲的に学習に参加することができた。 ・専科・ALTが連携して、外国語の学習を進めた。また、階段などの掲示で日常的に英語にふれる機会が増えた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTと連携した、質の高い授業が実施できている。毎時間、授業の初めに行っているフォニックスは、今後も生きる力として定着しつつある。学校生活アンケートでは、外国語活動に楽しく取り組んでいると答えた児童が90%を超えており、今後も児童の意欲を喚起する授業づくりを進める。 ・職員研修の機会を持ち、外国語の学習をよりよくするためにどうすればよいか学ぶことができた。今後とも学習会等で授業の質を高めていきたい。 	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しく取り組んでいる様子が、家でも伝わってきている。今後も楽しく取り組んでほしい。 ・生きた英語力(話す力)がついてきているのが分かる。 ・学年が上がるにつれて外国語に対するハードルが高くなる。中学校の学習へスムーズにつながっていくことを期待している。
	<ul style="list-style-type: none"> ・読書に親しみ、読書量が増えたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年に3回、読書週間を設定し、教師や図書委員会による読み聞かせを行う。 ・読書意欲を高めるため、読書貯金に継続して取り組み、しおりのプレゼントや表彰状で価値付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・休校の関係から、年3回実施の読書週間を2回に変更した。図書委員会からの読み聞かせは例年通り実施した。 ・11月を読書月間とし、冊数、ページ数の表彰を行う。しおりに関しても継続して取り組んだ。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も継続して読書週間を実施したい。期間中には、教師や図書委員会による読み聞かせも行い、本に親しめる場の設定をする。 ・読書貯金の実績に応じたしおりのプレゼントや、表彰状による価値づけに、来年度も継続して取り組み、読書意欲の向上に努めてい 	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おすすめの本の紹介をし合う活動を取り入れてみてはどうか。 ・活字離れが急速に進む中、本を読むくせ、小さい

書 指 導	<ul style="list-style-type: none"> ・読書に親しむ環境が整えられたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「チャレンジ！家庭学習カード」の中に、家庭読書の欄を設け、読書習慣の定着に向け家庭と連携して取り組む。 ・図書委員会から、図書室の利用や読書の推進の呼びかけを行う。 ・年に3回、多可町図書館からの団体貸出を利用することや、委員会活動で本の入替作業を行うことで、学級文庫の充実を図る。 ・図書ボランティアの協力を仰ぎ、利用しやすい図書室の運営を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭により実施が難しい場合もあるが、学級指導や通信で家庭での読書を意識してもらうようにした。 ・朝会で図書委員会から新しい本の紹介をした。 ・本年度より新教科書になったため、図書委員会で「教科書掲載の本棚」を設置した。 ・本に触れる機会が減っている児童もいるという点から、団体貸出を毎月実施に変更し、より季節や学習単元に即した内容の本を揃えるようにした。 ・図書ボランティアの協力により、学級文庫の本の入れ替え作業を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> く。 ・チャレンジ学習期間中の「家庭読書」を引き続き行い、家庭と連携して読書習慣の定着を促していきたい。 ・おすすめの本の紹介や掲示物等、図書委員会からの発信を更に増やしていきたい。 ・教科書掲載の本棚を整備したことで、利用しやすくなった。来年度も拡充を図る。 ・団体貸出については、今年は休校の関係で毎月実施をした。来年度は、実態や要望に応じて柔軟に対応していきたい。 ・図書ボランティアの協力を得ながら、学級文庫の更なる充実や図書室の整理といった読書環境の整備に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ころの「本が好き」が続くようになることを期待している。 ・家庭読書のように、保護者を巻き込む取組を今後も続けてほしい。 ・図書館に行く子は少ないので、身近な教室に本をそろえておきたい。
福 祉 教 育	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉教育を通して思いやりの心や共に生きる心の育成が進んでいるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の施設や人との交流を進める。 ・手話体験や車椅子体験等の疑似体験を通して、児童が主体的に福祉について考え、思いやりの心と共生の心をもって行動する態度を育てる。 ・福祉学習で学んだことを写真や新聞で掲示するなどし、全校生が福祉にふれる機会を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて、全学年で春蘭弁当の包み紙にイラストメッセージをかいて地域の方との交流を図った。 ・福祉学習で高齢者疑似体験や車イス、アイマスク体験等をする中で、高齢者や障害者について学び、思いやりの心を育んだ。 ・ぽかぽか集会で、福祉学習の取組や学びを発表することで、他学年が福祉にふれる機会を増やした。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も引き続き、春蘭弁当の包み紙の取組を続けていく。ただかくだけではなく、目的や相手の気持ちを考えさせる指導を行っていく。 ・4年生を中心とした福祉学習を広める取組が、ぽかぽか集会での発表や校内での新聞の掲示に限られているため、もっと他学年が主体的に福祉にふれ、考える機会をもつ取組を進めていく。 	<div>1</div> <ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを、他の学年に広める取組をしたことはすばらしい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルやプログラミング学習を通して、情報を活用する能力を育むことがで 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報教育の年間計画を作成し、6年間を通じて、発達段階に応じた情報 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に沿って、情報モラルやプログラミング学習について学習を進めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学年によって、使用頻度に差が出ている。どの学年でも授業、または調べ学習 	<div>2</div>

情報教育	<p>きたか。</p> <p>・各教科において、情報機器を活用し、児童が自分の思いや考えを表現することができたか。</p>	<p>モラルやプログラミング学習を進める。</p> <p>・算数や理科を主として、自身の考えや創作物をネットワークやアプリの中で交流させ、表現する機会を設定する。また、その活動に必要な能力を総合学習の中で活用する時間を確保する。</p>	<p>・授業の中で考えを伝える道具として活用し始めている。しかし、立ち上がりや機器の不具合などで使いにくさなどもあり、十分には活用できなかった。</p>	B	<p>等での使用ができるよう、使用する時間を計画的に組んでいく。</p> <p>・情報モラルについて、どのように実施したのかを確認する場をもち、共通理解を図る。</p> <p>・一人1台パソコンが配備され、全体へ考えを提示できるようになった。しかし、通信状況によっては映像が止まることもあり、より使いやすくなるように環境を整備していく。</p>	<p>・一人1台のパソコンが、有効活用されることを期待している。</p>
杉原紙学習	<p>・地域の伝統文化である杉原紙について学年に応じた体験活動を行い、地域の良さを知ることができる。</p>	<p>・各学年に応じた体験活動を計画的に展開し、杉原紙への関心を高め、理解を深める。</p> <p>・杉原紙を使って、学年に応じた作品を作り、杉原紙の良さに気づく。</p> <p>・校章の透かしの入った卒業証書を作り、本校の伝統ある取組に誇りを持つ。</p>	<p>・各学年に応じた紙漉き体験活動を行った。また、6年生の紙漉きの工程を1～5年生が見学することで、杉原紙への関心や理解を高めることができた。</p> <p>・杉原紙を使った作品作りを通して、杉原紙の良さを知り、杉原紙への愛着が増している。</p> <p>・6年生については、楮刈りから紙漉までの全工程を行う中で、その大変さや苦労を体験した。活動を通じ、地域を誇りに思う気持ちや杉原紙を後世に伝えようとする気持ちを育てることができた。</p>	A	<p>・来年度も各学年に応じた体験活動を継続して取り入れていく。6年生が行う全工程を1～5年生が見学し、時に共に活動する、その中で様々な知識や体験の継承が行われている。そのような意義のある活動を大切に、杉原紙への関心や理解を未来へとつないでいきたい。</p> <p>・6年生については、本校の特色である、杉原紙を1から作る工程にこだわって、来年度も紙漉き体験を行う。</p> <p>・総合的な学習の時間における、紙漉き体験の時間と、プログラミング学習の時間のカリキュラムマネジメントが必要である。年度当初から、見通しを持ち計画的に取組を進めていく。</p>	<p>1</p> <p>・杉原紙の取組はすばらしいものだと思うので、今後も続けてほしい。</p>
健	<p>・普遍のおよび日々に生起する健康課題に対して、児童一人一人が、より良く解決していくための能力を習</p>	<p>・健康教育情報センターとしての役割を果たす。</p> <p>・児童保健給食委員会を活性化させ、横のつなが</p>	<p>・毎月の保健だよりを通して、今必要な健康情報を児童・保護者に啓発した。</p> <p>・毎月テーマを持って、児</p>	B	<p>・新型コロナウイルス感染症の猛威がいつまで続くか分からないが、児童・職員の健康・いのちを第一に、考</p>	<p>1</p>

健康教育	<p>得することができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯を通して、健康で安全な生活を送るための実践力を習得することができたか。 	<p>りから集団の健康意識を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケガや疾病時に自分の生活を振り返り、これからの生活の中でどのように生活をしたらよいかを見直す機会とする。 ・健康診断結果から、児童の健康問題を把握する。また必要な児童には治療勧告をする。 	<p>童委員会の活動ができた。9月は給食当番チェック結果を全校生に発表した。当番活動をよりよいものにしようと、話し合いをもっていたいたクラスもあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休み時間は、一人一人ゆとりをもって接するよう心がけた。 ・健康診断が終わり次第、順次治療勧告を渡し、必要な児童には声かけをした。 	B	<p>えられる対応を続けていく。また、その対応がマンネリ化しないように継続的な指導をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちょっとした危険予測で防げるケガが多かった。児童一人一人が安全に行動できるように児童委員会でも取り組んでいく。 ・健康情報センターとして、迅速な情報発信と、丁寧な応急処置を引き続き行っていく。 	<p>・新型コロナウイルスの感染防止に向け、色々と工夫された取組がなされている。</p>
食育	<p>・全教育活動を通して食育の推進をはかり児童の関心や意識を高めることができたか。</p>	<p>・「食に関する指導の計画」を作成し、発達段階に応じて系統立った指導を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭や外部講師と連携して指導を行い、食への意識や関心を高める。 ・学校だよりなどを通じて学校の取組を保護者へ啓発し、連携して食育の推進に取り組む。 ・食に対する児童の意識や関心を高めるような環境づくりに努める。 	<p>・食育指導を中心に、各学年年間指導計画に従って実施しているが、感染症対策のため調理実習等、内容によっては実施できていない活動もあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員で、食物アレルギー対応を、給食センターからの個別献立表をもとに行った。 ・栄養教諭や外部講師(ヤクルト)による食育指導を行った。 	B	<p>・本年度は感染拡大防止の点から、調理実習等実施できない活動が多かった。来年度は、ICT機器を生かしながら、学年に応じた食育指導を実施していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭や外部講師(ヤクルト・漁港組合等)と連携して、食への意識や関心を高めていく。 	1
体力	<p>・杉小サーキットカードや体育ノートなどを活用し、計画的に体力向上をめざした取組が進んでいるか。</p>	<p>・体育ノートをより使いやすく、頑張りが見えやすいようにする。そして、児童一人一人が目標を明確に、計画的に体力向上に取り組めるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・杉小サーキットを継続して行うとともに、ウォーミングアップに柔軟を取り入れるなど、各学年の弱点 	<p>・体育ノートについては、学習指導要領を基に、学年間のつながりを意識して、内容を見直し、挿絵や技を変更した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・杉小サーキットは、感染症対策のため、学校再開後は、うんていやタイヤとびをなくして実施した。各学年 	A	<p>・体育ノートの記入欄を学年ごとに分けたことで、その年に使う箇所が分かりやすくなったとの声があった。ノートがより使いやすくなるよう、改良を重ねていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・杉小サーキットについては、どのように実施するか統一できていなかったため、各担任に任せる形にな 	1

づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・運動や体力づくりに興味を持って取り組む児童が増えたか。 ・児童の体力が向上しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・克服に向けた取組を行う。 ・体を動かす機会が減っている中で、安全に留意しながら運動量を確保する。 ・体育ノートを用いて、それぞれの児童が自身の体力や技能について把握できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・で継続して取り組んだ。 ・運動会は、感染症対策を講じながら、実施した。例年とは違った形になったが児童は意欲的に参加することができていた。 ・新体力テストの実施ができず、体力や技能については把握しにくい状態であったが、各学年で接触等に留意しながら、可能な範囲で体力を測定した。 	<ul style="list-style-type: none"> A <ul style="list-style-type: none"> ・ってしまった。来年度は、どのようなねらいを持って行うのか、研修や会議で共通理解し、計画的に行う。 ・来年度もコロナ対策を十分にしながら、駆け足運動や縄跳び運動などの取り組みを実施していく。 B <ul style="list-style-type: none"> ・来年度は、コロナ対策に十分留意しながら、新体力テスト・体力づくりに取り組む。 	
安全 教育 ・ 安全 管 理	<ul style="list-style-type: none"> ・定期点検や安全点検及び防犯防災訓練などを行うことにより、未然に事故防止を図る取組が進められているか。 ・安全に登下校ができているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月安全点検を行い、事故の未然防止に努める。 ・学期毎に防災訓練を行い、落ち着いて速やかに避難する態度を養うとともに、自分で考えて身を守る行動がとれる児童をめざす。 ・不審者対策の研修・訓練を実施する。 ・毎月の登校指導及び随時の下校指導により、子ども達の様子を把握し、安全指導を徹底する。 ・地域や家庭の協力を得ながら、安全な登下校を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検により、修理などを速やかにし、事故の未然防止に努めた。 ・2学期の防災訓練は、休み時間に実施し、児童の安全意識をより高め自ら考えて身を守ることができるようにしてきた。9月の引き渡しでは、混乱なくスムーズに保護者への引き渡しが行った。 ・遊具の使い方や遊び方等児童の安全指導も行った。 ・月毎の登校指導や適宜行っている下校指導により、子どもたちの安全確保に努めた。 ・保護者の登校時の見守り活動はコロナのため、秋のみの実施とした。 ・見守りボランティアも今年度も引き続き活動して頂いた。 	<ul style="list-style-type: none"> A <ul style="list-style-type: none"> ・毎月、定期点検、安全点検を確実に実施し、事故の未然防止に努めていく。 ・学期毎の避難訓練等も計画的に実施することで、安全意識を高め、落ち着いて速やかに避難できる態度を養っていく。また、教員の具体的な行動についても適宜訓練し、災害時に備える。 ・不審者対策の研修・訓練を職員・児童に関わる訓練として計画、実施する。 ・安全旗の利用や並び方等各班の指導の徹底をはかり、毎月の登下校指導をする。 A <ul style="list-style-type: none"> ・今年度はコロナ禍の中、休校もあり1回の実施になったが、保護者の登校時の見守り活動は、春秋と年2回実施する。児童の様子を把握しながら適宜指導し、安全確保に努めていく。 ・見守りボランティアの協力を得ながら、一人下校児童の安全確保に努める。 	<div data-bbox="1870 651 1899 699">1</div> <ul style="list-style-type: none"> ・登下校では、大変上手に歩けている。杉原谷小学校の伝統となりつつある。大切にしてほしい。

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に基本的な生活習慣や、生活規律を身につけさせることができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「杉原谷小学校 生活のきまり」を守ることを年間指導目標とし、基本的な生活習慣を身につけさせ、落ち着いた生活を送れるようにする。 ・代表委員会で月目標の学級での達成状況などを話し合い、児童集会で啓発をし、意識付けを行う。 ・特別教室の利用方法について、全校朝会や各学年の朝会を利用し、月一回程度、生活指導担当を中心に正しい利用方法を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活目標を守ることをしっかりと意識し、基本的な生活習慣を身につけ、落ち着いて学校生活に取り組めた。学校長や担任の講話などで、意識付けもこまめに行うことができた。 ・代表委員会で月目標の達成度を確認すると、概ねの児童が達成できていた。 ・全校朝会での基本的な生活態度の確認は行ってきたが、道具の使用法や特別教室に入室する際の所作については不十分であった。意識を高めるために、指導する場をもつ必要がある。 ・問題行動については、職員朝会や職員会議を通して、早急に情報を共有し、迅速に対応できた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・月目標によっては、達成人数に片寄りがみられた。コロナの影響で全校集会が行えなかったため、意識が高まりにくかった。来年度、同様の状況が続いた場合は、放送やリモートを通して注意喚起を行う。 	<div>2</div> <ul style="list-style-type: none"> ・問題行動については、とにかく早期発見が大切だと感じる。クラスの児童を担任だけに任せるのではなく、たくさんの大人の目で見ていってほしい。そして、職員室で「最近どうですか？」と声をかけ合える雰囲気作りを大切にしていほしい。 ・些細な事でも記録に残していくことを大切にしていほしい。 ・ SNS での情報を発信する時の注意を、しっかりと伝えてほしい。 ・情報モラルの授業は、低学年から必要だと感じる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域との連携を深め、問題行動等の未然防止、早期発見に努めているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での情報収集を行い、問題行動への未然防止、早期発見、早期対応につなげる。 ・専門家を招聘し、児童と保護者へ情報モラルの学習を行い、情報化社会における防犯意識を高める。高学年を中心に、各学級でも情報モラルの指導を行う。また児童が主体となって、学びを発信する場を設け、学校全体で意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルの専門家を招聘し、危険性や実態について講話いただき、学校全体で意識づけを行うことができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・当該学年や関係者で指導を行い、生徒指導に情報が伝わっていないものがあつた。そのため、校務支援システムを活用し、情報共有をより円滑に図る。 ・今年度は、コロナの影響で計画通りにPTAにむけての情報モラルの講師を招聘できなかった。来年度は、児童の講習はもちろん、保護者に向けた講習を行い、情報モラルの意識を高める。 	

清 掃 指 導	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃に熱心に取り組んでいるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除のきまりを教室や校舎内に掲示して、児童の意識を高める。 ・環境清掃委員会の活動の中で、定期的な清掃用具の点検を行い、充実した清掃時間になるようにする。 ・職員の清掃指導場所の分担を行い、清掃指導の効率化を図る。 ・時間を守り、静かに、時間いっぱいまで取り組めるよう、清掃強化週間を作り、学校全体に正しい清掃意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃時間を20分間から15分間に短くしたことや、定期的な清掃用具の点検を行うことで、集中して取り組んでいる様子が見られた。 ・職員の清掃指導場所の分担を行うことで、細かく指導ができていた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体が「もくもく・すみずみ・見つけ」掃除に取り組めるよう、引き続き声かけをしていく。 ・環境清掃委員会による清掃用具の点検を行い、意欲的に清掃に取り組める状態を維持する。 ・職員の清掃指導場所の分担を行い、細かく指導を行う。 ・今年度同様、清掃時間を15分間とし、集中して清掃に取り組ませる。環境清掃委員会の活動で、清掃強化週間を設定し、学校全体に正しい清掃意識を高める。 	1